

### 季節を感じよう！～「ディスプレイ委員」

#### 取組の背景・目的

児童館は、子どもが心身ともに安心・安全と感じ、ありのままで過ごすことができる居場所です。児童館を居場所と感じるかどうかは、子ども自身が決めることです。子どもの視点に立ち、子どもの声を聴き、「居たい」「行きたい」「やってみたい」と思う居場所を、子どもとともに作っていくことが重要です。

児童館の中で、多様な子どもが交流するロビーの雰囲気は重要です。来館者を最初に迎え入れるロビーの顔である掲示ボードの工夫をすることを考えました。職員が声をかけ、子どもが「やってみたい」という気持ちを尊重し、掲示ボードへのディスプレイ製作をすることにしました。

それまでは職員が製作していましたが、ディスプレイを通して、子どもが意見やメッセージを伝えるとともに、居場所を自分たちで作っていくために、分かりやすく、共通の話題となる季節のディスプレイを製作することにしました。

#### 取組の概要

川口子ども・若者育成支援センター（以下「センター」という。）は、市の直営で、放課後児童クラブが併設された小型児童館です。センターは、正規職員2名に非常勤3名の職員が交替で勤務しています。放課後児童クラブは、指定管理者が運営しています。

センターの利用対象は、0歳から18歳です。若者は支援の対象として、職員が相談に応じ、専門機関につないでいきます。

センターの玄関ドアから入ると、ロビーがあります。ロビーの左手奥には育成室、図書館、右手奥には乳幼児ルーム、集会室、遊戯室があります。

ロビーは多様な年齢の子どもや大人が必ず通る各部屋を結ぶハブ空港のような機能を持ったスペースです。その正面の180cm×85cmのボードがディスプレイの場所です。

製作の時間は、決まっていません。自分のやりたい時に職員に声をかけ、月のはじめに間に合うように製作します。放課後に何度も来館し、製作するなど子どものそれぞれのペースで製作します。この製作に携わる子どもをディスプレイ委員と呼んでいます。ディスプレイの内容を職員と決める製作の中心となる委員はいますが、誰でもいつでも委員として製作に参加できます。メインの委員は、期限に間に合うように忘れずに必ず訪ねてくれます。

ディスプレイ委員として製作することが急に始まるのではなく、それまでもセンターに遊びに来ていた子どもに職員が声をかけて関係性ができた子どもが委員の自覚をもって製作に参加しています。

毎月1枚のディスプレイを製作していく活動は任意参加なので、職員がいつでも子どものやりたい気持ちに気がついて、子どもが取り組めるようにしています。職員の誰でもが対応できるよう、常に情報共有を図り、材料の用意もしています。

## 工夫点・留意点

1年間を通じて製作してくれた委員は数名でしたが、その委員のこだわりや、その時の気持ちなどを大切にしながら、強制ではなく、自然と参加できるように職員の声掛けを工夫しています。また、メインの委員の意見が強すぎることでメンバーが固定され、他の子どもが参加しづらい雰囲気にならないように配慮をしています。



ディスプレイ製作には、多様な方法を用いています。ちぎり絵やパーツを折り紙で製作し、それをディスプレイに貼り付けるなど、多くの子どもが少しずつでも参加し協働で作り上げる工夫をしています。

子どもが製作に参加しなかった月は、過去の子どもの作品のディスプレイを掲示します。メインの委員は小学生の高学年でした。中学生になると、なかなか参加する機会が少なくなりますが、製作している小学生に声をかけてくれたり、今月のディスプレイがどのようなものか見に来てくれたりして、センターにつながる一つのツールともなっています。

## 取組の効果

どのようなディスプレイができたか、ロビーにおいて、楽しい会話に花が咲きます。また、ディスプレイの製作においても職員や多世代の交流の中で意見交換が行われています。

職員は、子どもと一緒に製作するという事で、子どもの気持ちを大切にしたい居場所を作っていくことができます。また、ディスプレイの製作を通して、子どもの意見を聴き、子どもとともに居場所を作っていくというイメージを職員が持つことができ、センターの運営に活かされます。

遊びによる健全育成の点では、センターは運動の遊びやプログラムは充実していますが、本を読んで過ごす子どもや会話もあまりしないで静かに過ごしている子どももいます。このような子どもも、ディスプレイ製作に積極的に参画してくれるようになると、他の行事にも積極的に参加してくれるようになりました。

## 課題・今後の展開

センターの施設は、築48年と老朽化が進んでいますが、毎月のディスプレイでセンターが華やかになっています。子どもがペンキを塗るなど、子どもの愛のあふれる施設を目指していきたいです。

また、ディスプレイ製作の継続だけではなく、「なんでもボード」を用意して、部屋の使い方のルールや、設置してほしい遊具やマンガ、伝えたいことなどを書いてもらい、意見を反映した過ごしやすい居場所づくりを目指しています。

このように、子どもが意見を言いやすい居場所をつくることで、子どもの活動の質が高まり、様々なイベントの運営、企画、実行委員等への参画につながっていくと考えています。

